

振り付けの「盲点」

振り付け作業を進めていくなかで、見逃しがち・忘れがちなチェックポイントをあげていこう。

いざ振り写しや練習に入った時の部員の顔を見てみよう。それが部員の振り付けに対する第一印象だ。イキイキしているか、無表情か、戸惑っているか。悪い雰囲気をそのままステージに持っていかないように、ココが最初のチェックポイントだ。



振り付けをこなそうとするあまりに見逃しがちなポイント。その動きや表現方法に違和感を感じていないかな。逆に、良い振り付けには「わかるわかる!」と自然に笑顔になるような合理性や必然性があるもの。そうでない振り付けは、身勝手な無駄が多いと言えるのだ。



「細かいところは気にはなるけど…まあ、いいか」という小さな妥協が、本番での大きな差につながります。妥協なく、遠慮なく、初めからボタンの掛け違いをなくしていこう!



振り付けの一番の見せ場はどこか? そこを際立たせる構成と見せ方ができているかな? 良い作品には必ず「残像」とも言えるような印象的な場面が1つあるのだ。

ダメなら思い切って最初からやり直す根気と勇気を持とう。「時間がない」は当たり前。他の学校もギリギリまで試行錯誤しています。貴重な高校生活のハイライトを悔いなく作り上げるべし!



ココが一番大事。自分たちの振り付けを好きになれるか、ずっと愛せるかどうか。とにかく「好き」で、何度踊っても「盛り上がる」ダンスで、「自信が持てる」作品かどうかを、今一度自分たちのハートに聞いてみよう!

当初のテーマやコンセプトに無理はないかな? 理想は高くても技術的に難しいものなら、全員ができるレベルの振り付けを楽しんでやるほうが得策かも!



コンテストで勝ちたいならば、自分たちの最高だけを追い求めるのではなく、ライバル校の出方や審査傾向、または会場の雰囲気などをシミュレーションするべし。己を知る前にまずは敵を知る!

困ったときのアイデアTips

みんなで作れば恐くない!

個人や数人がすべてを作るのではなく、パートごとに作り手を変えたり、複数から良いアイデアを採用していく方法も、意外な展開が作れる。「こう来たろう」と、まるでダンスバトルや曲の共作のような触発が生まれるかもね。

LIVE だからフリーでアガれ!

練習で飽きないため、本番で盛り上がるために、完全にフリーで踊れるセクションを作っておくのも面白い。ライブというのは、その時だけのハプニングが醍醐味だからね。

引き算して正解?

ダンス部の振り付けがよくありがちなのが「盛り過ぎ」傾向。アレもコレもやりたい!自分たちのすべてを出さなくちゃ!と必死なのはわかるが、見ているほうはそれほど情報処理できない。ましてやコンテストでは何10個も作品を見るわけだからね。そこで、一度完成したモノから差し引いてみる=踊らない箇所を作るのも、正解を解き明かすひとつの方程式だ。「音楽の最も美しい部分は、無音」という名言もあるぐらいだからね。

記事協力: TERARIE

図解 振り付けの「手順」

振り付けが完成するまでは、複数のファクターが有機的に絡み合いながら、ひとつの作品として収束していく。それらは順序立てつつも同時進行でイメージされていくものだ。その一般的な手順を時間軸で図にしてみよう。

衣装	構成	ダンス	曲	テーマ
振り付けの「着想」はこれらのどこからでも、複数が同時進行でも良い				
<p>イメージを増幅させる</p> <p>ここまでくれば、おのずと衣装やメイクのイメージは固まっているはずだ。制作担当にイメージを伝え、予算やスケジュールを管理しつつ、完成品を練習で試すことを忘れずに。意外に多いのが、衣装の踊りやすさや強度を考慮していないことだ。</p>	<p>フォーメーションと起承転結</p> <p>ダンスをより活かすために、各メンバーの移動や隊列など、群舞ならではの展開を時間軸で考えていこう。チームが一個体の生き物や魚群に見えるよう、伸びたり縮んだり、次々と形を変え、観客の目を楽しませる俯瞰の視点で。ダンスとフォーメーションをさまざまに組み合わせ、起承転結のある構成が作れるよう、作っては試し、試しては壊し、という作業をくり返す。ココが一番時間をかけ、根気よく振り付けの仕上げにあたっていこう。</p>	<p>踊ってみる</p> <p>難しいことは考えずに、まずは感覚にまかせて踊ってみよう。複数人で遊び感覚で踊ってもいいだろう。曲に一番合ったノリ方や「その動き、面白い!」というオリジナルな動きを発見できるかもしれない。採用されたダンスの断片をメモリ、曲にあてはめ、それぞれの精度や繋がりを磨いていこう。ダンスとは音楽の良さを表現するもの、音楽に良いダンスを引き出してもらおう気持ちで、とにかく踊りまくる!</p>	<p>選曲</p> <p>曲はもちろん、好きな曲や踊れる曲で選ぶのが第一。ただ、良い曲と踊れる曲は違う場合があるので、じっくりと耳と身体で選びたい。さらに、それがテーマと合っているか? 歌詞の内容は? また、そのアーティストや曲のバックグラウンドも理解したい。最低でも100回は聴き、いろんな音やノリ方を探していこう。</p>	<p>テーマ決め</p> <p>まずは全体のテーマを話し合ってみるの、ダンス部にとってスタートしやすいだろう。表現したいことは何か、ストーリーものにするか、イメージ重視でいくか。前ページで解説した、どんなスタイルを取るのかも最初のテーマ決めの一部と言える。この時点ではどんどんアイデアを出し合っていて、チームの総意として「やりたいこと」「自分たちに向いていること」「目的を達成できるやり方」を探っていこう。</p>
完成				
			<p>MIX</p> <p>複数の曲が決まったら、そのつながりをミックスしていこう。タイミングや効果音一つでガラリと印象が変わるから、さまざまなパターンを作ってみるのも良いだろう。複数曲で音質を揃える微調整にも気を配りたいので、編曲作業が得意な人に頼むのも良いだろう。</p>	<p>テーマの見直し</p> <p>ある程度まで振り付けが進んだ段階で、当初のテーマからブレがないか確認したい。ブレがあるなら修正、ブレがあっても方向転換ならばそれもよし、という確認作業だ。</p>

振り付けの「金言」

実際にさまざまな振り付け作品を生み出しているプロダンサーからアドバイスをもらった!

▶ 真っさらな気持ちで素直に動く

振り付けが一番大切にしていることは「聴いた曲に素直に動く!」——これだけです。いろんなステップやダンスを知ること逆に固定概念ができ、良い振り付けができなくなると思っています。常に真っさらな気持ちで素直に表現することですね。



YOHEY
PaniCrew

▶ お客さんを自分のフィールドに

コンテストでは数分の限られた中で自分をプレゼンしなければいけないので、音楽のリズム取りをいろいろ変えていたり、身体の使い方を身体の流れによって繋げていったり、歌詞と感情と身体をリンクさせたり、起承転結を作ったり。そしてステージに立って踊っているイメージをし、自分をお客さんの立場で客観視して、その気持ちを動かしながら、押ししたり、引いたり、振り回しながら、自分たちのフィールドへ持っていったらベストですね!



CRAZY
SHIZUKA

▶ 音楽のイメージを大切に

やっぱり音楽あつてのダンスなんで、振りを作るときも、その音楽のイメージをどこまで膨らませられるか? だと思います。音に合わせて振りを作ることは実はそんなに難しくありません。音楽のイメージを大切にしつつ、音に合わせて作って、さらに見ている人にどう印象を与えたいか? をしっかり考えて作れるかが、良い振り付け/悪い振り付けの差だと思います。



DOMINIQUE
WRECKING CREW
ORCHESTRA

▶ 人数と個性を活かして

ダンスと関係ない人の動きからインスピレーションを湧かせて振りを作ることがよくあります。アーティストの振付はその方によりますが、歌詞の内容やメロディラインを強く意識して作ることも多いです。グループへの振り付けのときは人数を活かせる構成や音使い、シンクロ感を意識しつつ、それぞれの個性も見えるように振り付けることを心がけています。



MAIKO